

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2015. 4. 17(金)
No. 216

組合は駆け込み寺!

～困ったことは、何でも相談を!!～

さいたま市の教職員のみなさんへ
働くことが喜びとなる職場、子どもがかかわることが楽しく、いとおしくなる学校を、そして人間が大切にされる社会をみんなで作っていきましょう。
さいたま市教職員組合執行委員長 浦本和隆

職場の中に「ホッとした」時間がない……

四月はさまざまなお出合いの場。しかし、あいさつもつかの間、初日から仕事に追われます。職場の中に「ホッと」した時間はありません。初対面にもかかわらず、お互いに知り合う時間はありません。このままずっと夏休みまで突っ走るのでしょうか。

最初だからこそ、お互いを知り合う時間が必要なのではないでしょうか。子どもたちにも「こうしなさい」「こうなるべきだ」と、一方的な「学校スタンダード」を押しつけていないでしょうか。「きまり」は、学校生活や人間関係を豊かにするために必要なもので、子どもたち自身が自分たちでつくっていくことが大切だと思います。

教職員が働きやすい職場は、お互いの意見が保障されている自由な雰囲気の中で……

働きやすい職場を求めて……

働きやすい職場を求めて、教職員組合に相談に来られた事例を紹介しましょう。

●人事異動は、勤務条件の変更を意味するもので、生活を守るための交渉事項です。意向に添わない困難な状況は、組合に入ってもらうとともに、交渉を通して意向に添うよう要求を実現してきました。

●指導と称してのパワハラが増加しています。職場の「パワハラ委員会」が機能していない場合、組合から市教委へ改善を要求しています。それで組合に入った人もいます。みなさんは、生命保険や自動車保険・火災保険に入っていますか。それと同じように、私たちは働く者の尊厳を守らせる

気の中でこそ感じられませんが、そのためには最初にお互いを知り合う時間が大切なのではないでしょうか。

学校の「ブラック化」を告発

三月二十七日に組合の青年部がワークバランス「働く者の権利に関する実態調査」をもとに文科省交渉を行いました。

◆土日のどちらか出勤しているら四四%、土日どちらも出勤しているら二八%で、七割以上が休日出勤をしている。

この結果を突きつけ、学校が「ブラック化」していることを訴えました。長時間過密労働の解消

のために、①教職員定数の改善、②少人数学級の実現、③働く者の権利や法制度の周知、④部活動の負担軽減などを要求しました。子育てしながらの長時間過密労働が常態化し、「定時での退勤は申し訳ない」という風潮が蔓延している現実を訴えました。

文科省は、「長時間過密労働は認識している。法制度の周知や勤務時間の管理、事務作業の効率化に向けて、各教育委員会に指導していく」と回答しました。さらに、国民的な要求の三十五人学級の実現と定数の抜本的な計画的な拡充に向けての努力を要請しました。

成果主義的査定 賃金導入反対!

昨年の成果主義的査定賃金導入反対の県教委交渉では、一万を超える署名、数度にわたる交渉や折衝を重ねて一定の歯止めをかけてきました。今後は、「自己評価を基本とする」という回答を徹底させ、チーム及び総合評価で「C」をつけさせない取り組みを進めます。

また、成果主義的格差をつけさせない評価者研修を周知徹底させる学校現場での取り組みを大切にします。

一人ひとりの個性が認められ、互いの良さを引き出し、教職員みんなが学校の教育力を高めてい

みなさんの声を もとに市教委交渉を要求実現へ!

さいたま市は、学習状況調査(一月八日実施予定)や小一からの「英語」の授業の実施、二〇一七年度からの税源移譲など、トップダウンの教育施策を強引に進めています。現場の声を市教委に届け、対等に交渉する「教職員組合」の存在がますます重要になってきています。何も言わず、言われるがままに、意に添わない

仕事をし続けるのか、おかしなことはおかしいと、言い、みんなと一緒になって要求していくのかが鋭く問われています。さいたま市教組は、みなさんの不平・不満・願い・希望をしっかりと受け止め、要求実現のためになんげんる決意です。教職員組合にあなたの声を届けてください。(eメールは下記)



何を大事に学級づくりをすればいいのかが、分かりました。

～4/4、春の学級びらき学習会開催～

「初めて担任します。どのよう学級づくりをしたらいいか不安でしたが、……とても楽しみになりました。」小中あわせて五十名が参加した『学級びらき学習会』。二十代の若い先生も多数参加し、充実した会になりました。

○「今までクラスをいかに統率するか、管理するかといいことばかり考えてしまっていたので、目から鱗のお話でした。」

○「子どもたちに聞く、子どもたちと考える、子どもたちといっしょにつくる、子どもたちに決めさせる。」

子どもを育てる視点を広めたいと思いましたが……

